

タギゾウちゃんと
大雨の夜

おおあめのよる



さく：養老町教育委員会 中島 和哉
え：山本 彩乃



タギゾウくんはタギの^{くに}国の^{おうさま}王様です。



ある日の夜、タギゾウくんはずっと降り続く雨を心配していました。

タギの国には、たくさんの川が流れる低い土地に、お米をつくって生活している村があるからです。

その村は周囲を土の堤防で囲み、川から村を守っていました。



しかし、ずっと降り続く雨により、堤防のすぐ向こうまで川の水が増えてきています。

「雨が止まないと、村が危ない。みんなに逃げるように伝えなきゃ」

タギゾウくんは、外に出ました。そのとき、少しずつ雨が弱くなりはじめました。

「よかった」タギゾウくんはほっとしました。



つぎ ひ
次の日、タギゾウくんはこの村に住む友達^{むら す ともだち}のイケちゃんに会い^{あ い}に行きました。

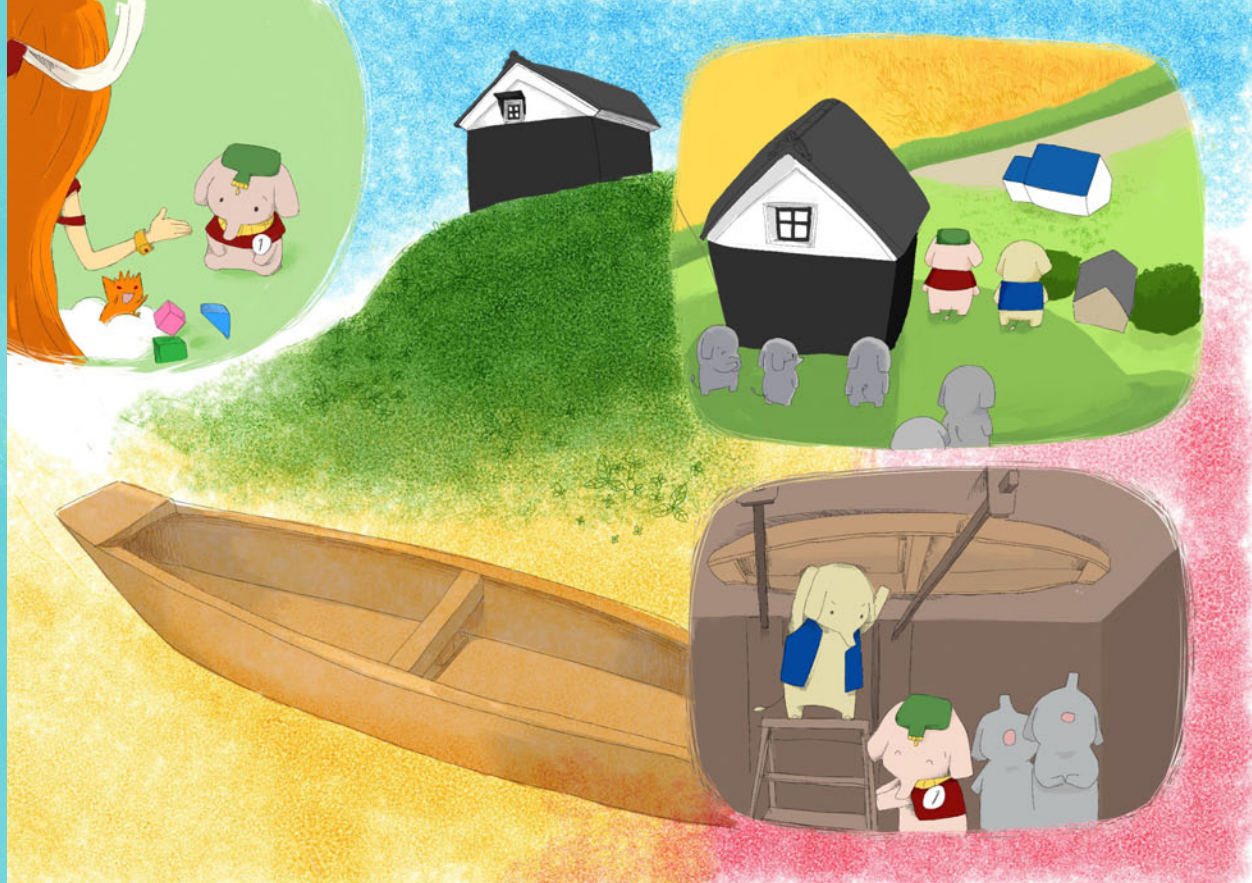
「イケちゃん、昨日^{きのう あめ}は雨が止^やんでよかったね」

「うん、でも…^{あめ}雨はき^ふっとまた降^{つぎ たいじょうぶ}る。次も大丈夫^{かぎ}とは限^はらないよ」

イケちゃん^{ふあん}は不安^{はな}そうに話^{はな}しました。



いえ もど 家に戻ったタギゾウくんは、イケちゃんと村のために何かにできないか考えました。しかし、ちっともいい
 かんが 考えが浮かびません。困りはてたタギゾウくんは、象鼻山に登り女神さまに会いに行きました。
 めがみ すると、女神さまはいいました。「自然の力は強く、どうすることもできません。川よりも低い場所に住む
 えら ことを選んだのであれば、必ずまた昨日のようなことは起こるでしょう」

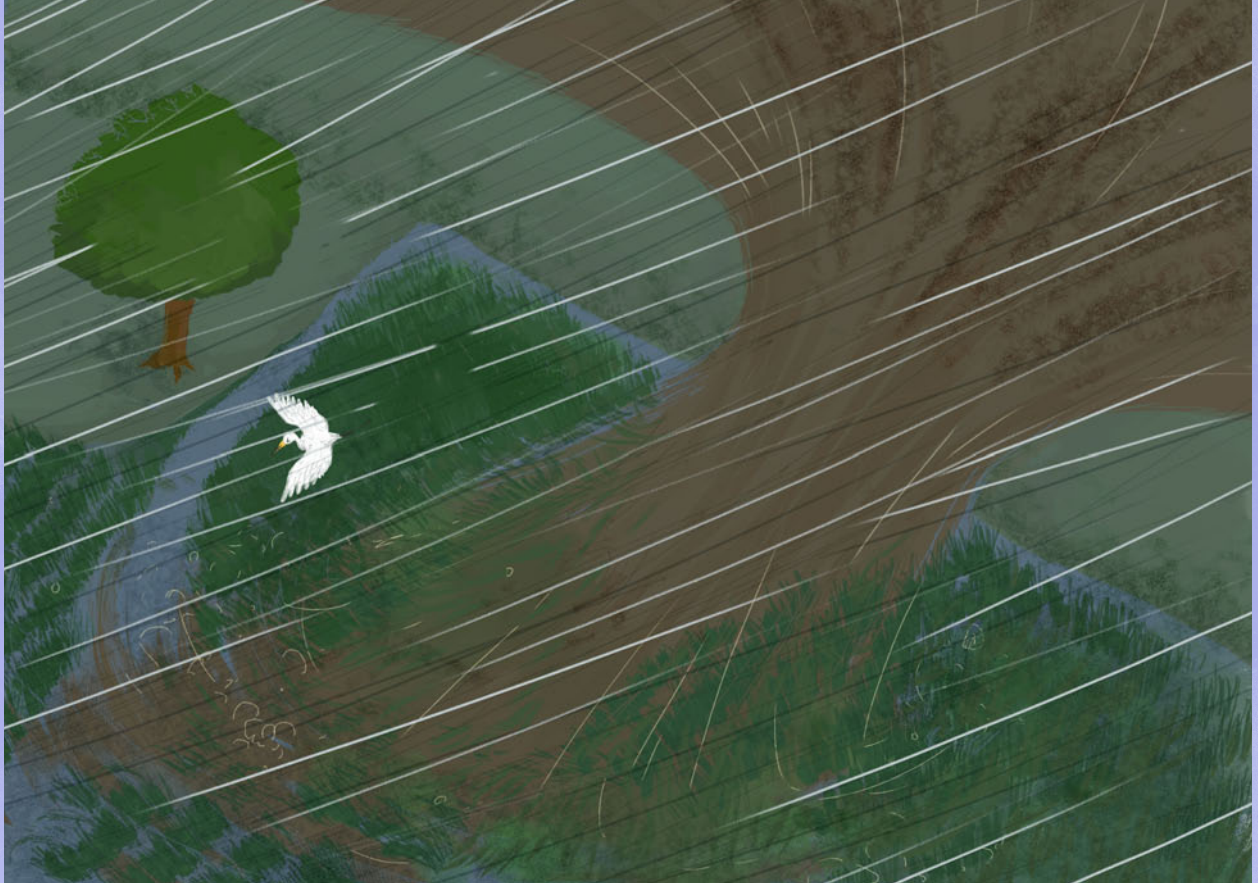


「しかし、このままでもいけませんね。^{つぎ おおあめ}次の大雨までに、^{むら たか ばしょ そうこ}村の高い場所に倉庫をつくり、そこに大事なものを^{だいじ}置いておくといよいでしょう。それから、^{すこ おお ふね}少しでも多く、舟をつくってあげなさい」

これを聞いたタギゾウくんや、^{むら ひと}村の人たちは、さっそく^{ていぼう うえ そうこ た}堤防の上に倉庫を建てました。また、^{ふね}舟をつくり、^{いえ のきさき つる つぎ おおあめ そな}家の軒先に吊して、次の大雨に備えました。



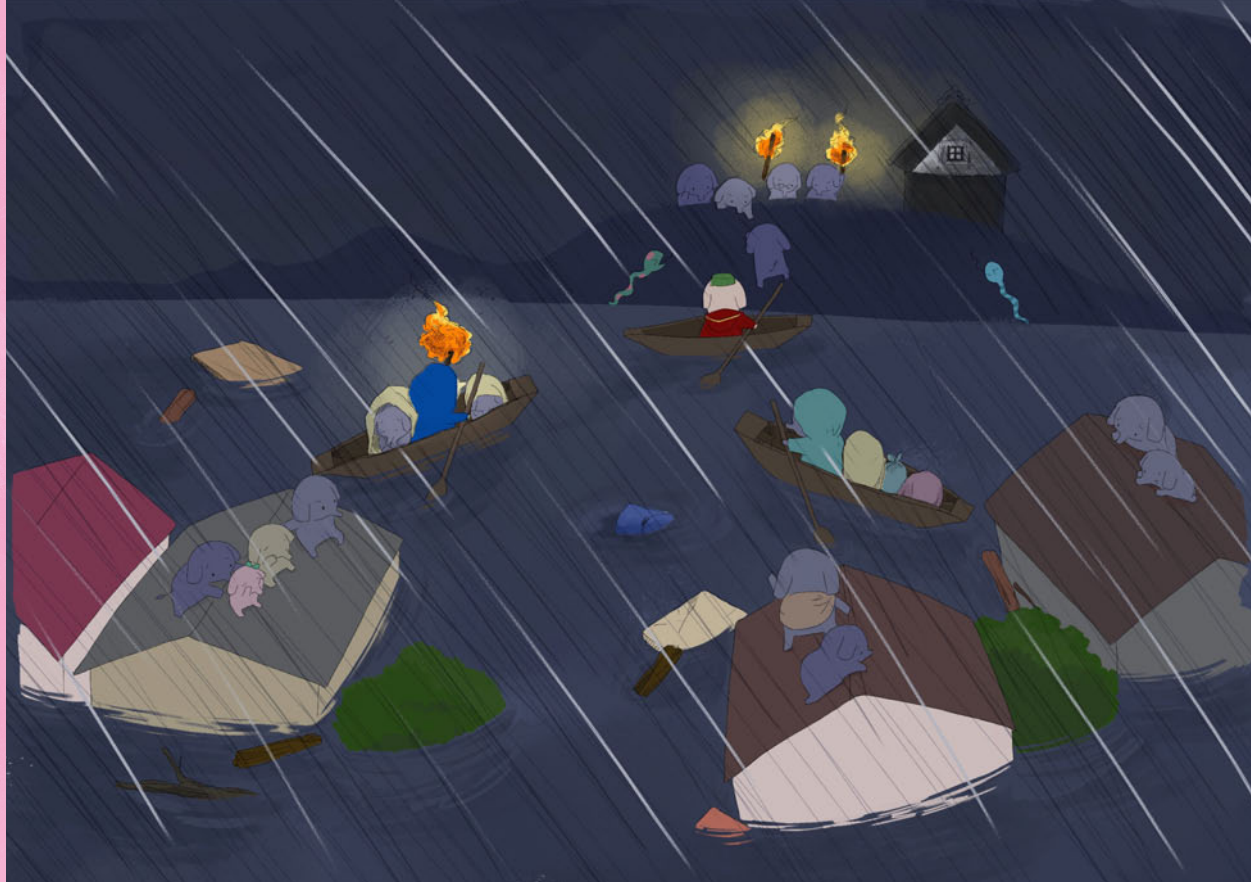
そして、^{すうじつ}数日^たが経^{くに}ち、タギ^{おおあめ}の国^{あめ}にまた大雨^{あめ}がや^{けはい}ってき^{かわ}ました。^{すい}あ
雨^{あめ}は、い^{こんど}っ^{あめ}こう^{あぶ}に止^むむ気^む配^むがあ^にり^なま^にせん。川^{かね}の水^な位^にはど^にん^{つた}ど^{つた}ん上^{つた}が^{つた}ってい^{つた}き^{つた}ます。
「今^{こんど}度の^{あめ}雨^{あぶ}は危^あない」
タギゾウ^{むら}く^むんが村^むに向^むかうと、イケ^{かね}ちゃん^なが鐘^{かね}を鳴^ならし、み^にん^にな^にに逃^にげる^によう^にに伝^{つた}えてい^{つた}ます。



そのとき、^{かわ}川の水が強い力で^{みず}堤防を壊してしまいました。水は、^{つよ}どんどん村の中に流れ込んでいきます。^{ちから}

^{みず}「水がくるぞー」

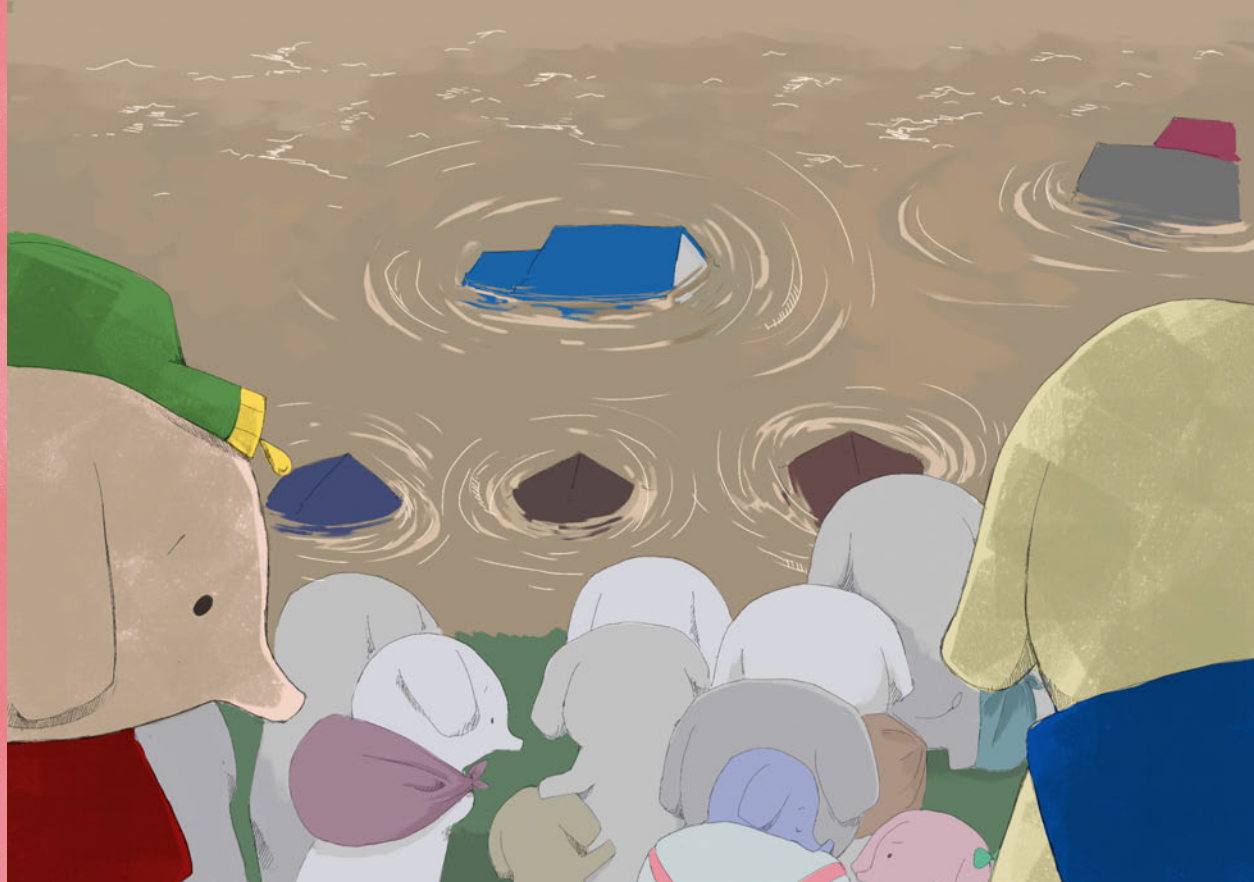
^{むらびとたち}村人達は必死に^{ひっし}逃げる^に場所をさがしました。^{ばしよ}



そのとき堤防ていぼうの上うへにつくった倉庫そうこだけは、水面すいめんより高い位置たかにあり、無事いでした。ぶじ

「あそこに避難ひなんしよう」

暗闇くらやみの中なか、村むらの人ひとたちは必死ひっしに、堤防ていぼうの倉庫そうこに避難ひなんしてきます。しかし、逃げ遅にれて、屋根やの上ねで救助きゆうじょを待まちつ人ひともいました。タギゾウくんは、イケちゃん達たちと一緒にいっしょに、取り残とされた人のこの救助きゆうじょにあたりました。



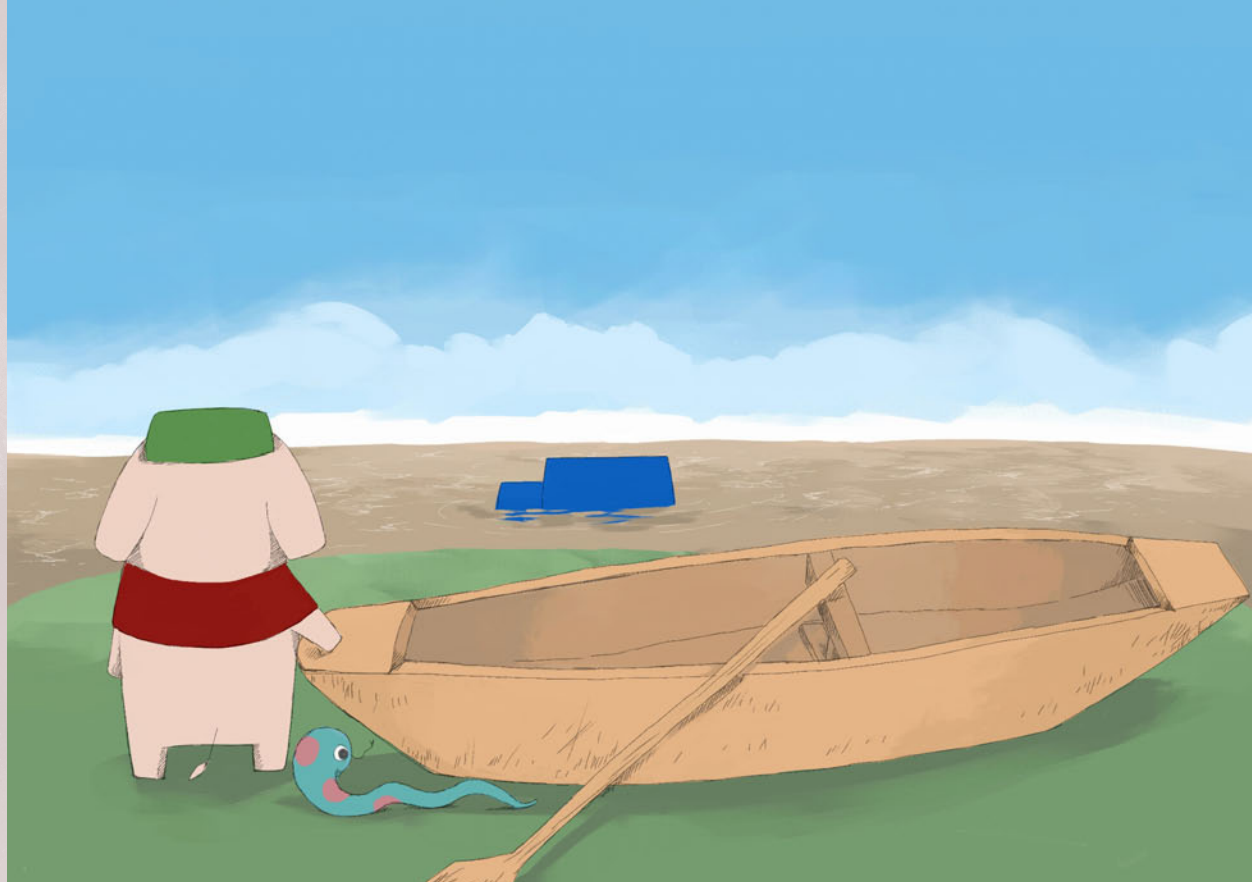
そして夜が^{よる}明^あけ、ようやく雨は^{あめ}止^やまりましたが、村の中は^{むら}水^{なか}浸^{みずびた}しになってしまいました。

イケちゃんの家も、^{いえ}屋根^{やね}だけが^{すいめん}水面^でに出ています。

タギゾウくんがイケちゃん^{かお}の顔^ををのぞきこむと、イケちゃん^{いま}は^な今^だにも泣き出してしまいました。



タギゾウくんはイケちゃんをなぐさめたいとおもいましたが、じぶんきもじょうずつた自分の気持ちを上手に伝えられません。すると、イケちゃんはなみだかく、タギゾウくんにいいました。「村は洪水にあっちゃったけど、ふねそうこ舟と倉庫のおかげで村の人はむらひとたす助かった。ありがとう。こんどあめまていぼう今度はどんな雨にも負けない堤防をつくって、この村をタギのくにいちばんお米がとれる村にしてみせるよ」イケちゃんはそういつて、戻っていきました。



タギゾウくんは何もいえませんでした。でも、心の中では、
「ぼくももっと勉強して、きっとこの村を守る方法を見つけてみせるからね」
そうイケちゃんにいいました。

保護者の皆様へ



岐阜県養老町の歴史文化資源：<http://tagizou.com/>

電子書籍「養老町の大水害」：<http://tagizou.com/main/elibrary/?other>

解説 養老町と水害



伊勢湾台風時の養老町の様子



養老町の低地部は、常に水害の恐怖にさらされてきました。そのため、人々は集落を堤防で囲むなどの対策を取り、輪中と呼ばれる集落が、養老町をはじめ木曽三川とその支流域にたくさん生まれました。その多くは江戸時代に形成されたものです。

近代以降は、大規模な治水事業により、輪中の必要性は低くなりましたが、それでも昭和34年の集中豪雨と伊勢湾台風では、養老町根古地で堤防が決壊し、輪中地帯は水没しています。

この絵本は、当地域の人々が常に水害と闘ってきたこと、そしてそうした治水問題は現在にも続いていることを知って頂くために作成しました。ぜひ、一度タギゾウちゃんとイケちゃんを守ろうとしている輪中を調べてみてください。

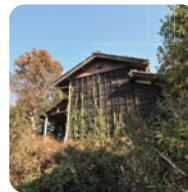
見学ポイント



●決壊口之碑



●輪中堤防



●水屋
(養老町指定文化財)

アクセス



車

名神高速道路 大垣インターより約 12 分

MAP

詳しい地図は
【[こちら](#)】
(google map)





おしまい